

## 総合科学技術・イノベーション会議

### 第9回 重要課題専門調査会

内閣府 政策統括官（科学技術政策・イノベーション担当）

総合科学技術・イノベーション会議 重要課題専門調査会（第9回）

1. 日 時 平成28年7月22日（金） 10:01～11:15

2. 場 所 中央合同庁舎4号館 11階 共用第1特別会議室

3. 議 事

開 会

議 題

1. 「Society 5.0」の実現を支えるプラットフォームについて

2. 基盤技術検討会・分科会での検討状況について

（1）システム基盤技術検討会

（2）ナノテクノロジー・材料基盤技術分科会

3. 各戦協・WG等の活動状況について

地域における人とかのワーキンググループ

4. 「重きを置くべき施策」の特定のためのヒアリングの進め方について

5. エネルギー・環境イノベーション戦略推進WGの設置について

閉 会

4. 配布資料

資料1 Society 5.0の実現を支えるプラットフォーム

資料2-1 システム基盤技術検討会状況報告

資料2-2 ナノテクノロジー・材料の戦略策定の進め方

資料3-1 民間企業等における研究開発プロジェクト公募要綱（案）

資料3-2 民間企業等における研究開発プロジェクト公募要綱（概要）（案）

資料4 科学技術イノベーション総合戦略2016第1章（2）（3）及び第2章に基づく重きを置くべき施策の特定について

資料5-1 戦略協議会等の体制

資料5-2 各戦略協議会等の検討対象

## 5. 机上資料

机上資料1 科学技術イノベーション総合戦略2016

## 6. 議 事

開 会

【久間議員】

皆さん、おはようございます。本日はお忙しい中御出席いただきましてどうもありがとうございます。

ただいまから、第9回重要課題専門調査会を開催いたします。

きょうは1時間15分という短い時間ですが、中身の濃い会議にしたいと思いますので、よろしく願いいたします。

今年4月に、前回の重要課題専門調査会が開催されましたが、その後5月24日に科学技術イノベーション総合戦略2016が閣議決定されました。これから、第5期科学技術基本計画で掲げた「Society 5.0」の実現に向けて、総合戦略2016を着実に推進していくことが重要です。今後とも各戦略協議会やワーキンググループにおける活発な議論をお願いいたします。

それでは、議事に入ります。

本日の出欠状況及び資料について事務局から御紹介ください。

【布施田参事官】

事務局でございます。

本日、この調査会の構成員25名のうち、20名が出席の予定でございます。新井委員と渡辺（裕）委員は遅れて御参加となります。また、システム基盤技術検討会から田中様も御参加していただいております。また、内閣府の事務局側でございますが、人事異動がございまして交代しております。中西前審議官の代わりに進藤審議官が着任されておりますので、それぞれ簡単に御交代の御挨拶をいただきたいと思います。

中西前審議官よろしくお願いいたします。

【中西前審議官】

御紹介いただきありがとうございます。

この２年間いろいろとお世話になりました。直接、重要課題専門調査会の委員の皆様と交流があったわけではございませんが、いろいろとお世話になりました。ありがとうございました。

【進藤審議官】

後任の進藤と申します。

中西の後を継いで、総括や基本計画などを担当してまいります。経産省出身で、前任は東北大学で理事を３年やらせていただいております。どうぞよろしくお願いいたします。

【布施田参事官】

ありがとうございます。

続きまして、配布資料の確認をさせていただきます。お手元の資料の議事次第の下に配布資料の記載がございます。

まず、資料１、Ａ４横でございまして、「Ｓｏｃｉｅｔｙ５．０」の実現を支えるプラットフォームということで、後ほど久間会長の方から御説明をいただきます。資料２－１、Ａ４横の資料でございしますが、システム基盤技術検討会の状況報告で、相田座長から御報告いただきます。資料２－２がナノテクノロジー・材料基盤技術分科会からの資料でございまして、塚本座長から御紹介いただきます。資料３－１、３－２が、地域における人とくらしのワーキンググループからの説明資料でございまして、後ほど今村座長の方から御紹介をいただきます。資料４でございしますが、こちらが科学技術イノベーション総合戦略２０１６に基づく重きを置くべき施策の特定ということで、今後ヒアリングを始めていきますので、そちらの方の御説明でございします。事務局から後ほど紹介させていただきます。資料５－１、５－２とございしますが、当専門調査会のワーキンググループの名称変更がございますので、こちらも後ほど事務局から御紹介させていただきます。

配布資料は以上でございします。過不足等ございましたら、事務局までお申しつけください。

以上でございします。

【久間議員】

どうもありがとうございました。

それでは、議題１に入りたいと思います。

まず、私の方から資料1の「Society 5.0」の実現を支えるプラットフォームについて、共通認識を持つために簡単に御紹介します。

資料1の1ページ目、Society 5.0のコンセプトは、産業界が全面的に参加し、CSTIと一体となつてつくった概念です。狩猟社会、農耕社会、工業社会、情報社会に続く、新たな経済社会のことをいいます。

サイバー空間とフィジカル空間を高度に融合させること、経済発展と少子高齢化やエネルギー問題といった社会課題の解決を両立すること、その結果として、人間中心の社会をつくっていかうということです。安倍総理の最重点政策は、経済再生、経済成長であることを忘れず、Society 5.0を説明するときには、この3項目を正しく伝えていただきたいと思います。

それから資料1の2ページ目、システム基盤技術検討会は、Society 5.0を実現するプラットフォーム構築に向けた検討を推進する会です。Society 5.0を実現するプラットフォームとして6項目書いてありますが、まず1項目に、システムの高度化とシステム間の連携協調に向けた取組とあります。これは総合戦略2015で定めた11システムのうち、高度道路交通システム、エネルギーバリューチェーンの最適化、新たなものづくりシステム、この3つをコアシステムとして開発し、他システムとの連携協調を図り、新たな価値を創出するというものです。右の吹き出しに書いてありますように、11システムを着実に遂行するとともに、システム間の連携で新しい価値をつくることを目的としています。

次の3ページを見ていただきたいのですが、では、プラットフォームとは何かということをもとめたのがこの図です。

まず一番上のレイヤーに、黄色とかオレンジで書いてあるものが、11システムです。

それから真ん中のレイヤーに基盤技術、データベースとあります。Society 5.0を実現するために、AI、ビッグデータ解析技術、サイバーセキュリティ技術といったサイバー空間での基盤技術を徹底的に強化することが重要です。

そして②にありますように、各システムの高度化に資するデータベースの構築が必要です。構築するときには、③にありますが、将来のシステム連携に備え、通信のインターフェースとかデータフォーマットなどを共通にすることを検討したいと思います。

それから一番下の層ですが、知財戦略、国際標準化の推進、実用化・事業化を実現するための制度改革の推進と、社会的な受容の醸成、そして人材育成、こういったものを④として一番下の層に書いてあります。

このようなプラットフォームを構築することが目的であることを、皆さんに共通認識していただき、本日の会議を進めたいと思います。

Society 5.0 実現に向けたプラットフォームの構築についてお話しさせていただきましたが、Society 5.0 実現に向けて、引き続き各戦略協議会やワーキンググループでの活発な議論を、よろしくお願いいたします。

それでは、議題2に移ります。

議題2は、基盤技術検討会・分科会での検討状況についてです。

システム基盤技術検討会では、前年度の検討においてシステム間の連携協調を促進するためのデータベース構築などについて検討を進めております。また、Society 5.0 実現を支える重要な基盤技術であるAIについては、文科省と経産省と総務省がそれぞれ研究開発拠点をつくり検討を加速していますが、CSTIは3省がばらばらにならないように、連携して推進するのを束ねる役割を担っています。さらにこの3省連携プロジェクトとSIPの連携強化についても検討を進めております。

一方、ナノテクノロジー・材料基盤技術分科会は、各システムの材料に対するニーズを把握するための会議体と、材料関係の研究開発及び産業化動向を共有して今後の戦略を検討する会議体をあわせたものです。材料とシステムを連携させて、相乗効果を出す活動を進めております。

この2つの会についてこれから議論いただきます。まず、システム基盤技術検討会座長の相田委員から説明してください。

#### 【相田委員】

システム基盤技術検討会の座長を務める相田でございます。

資料2-1をごらんください。

1 ページ目、2 ページ目は、今、久間会長に御説明いただいた資料と同じでございます。2 ページ目の図において、1 ページにございました6項目のうちの下の4、5、6というのは、いろいろなシステムをつくっていくための社会的なコンセンサス基盤と言えるところかと思えます。

11あるプロジェクトの開発を確実にやっていくということが、まずは最重点でございますので、当初は場合によっては11のシステム、それぞれ別々に構築するという部分があるのはやむを得ないかもしれませんが、やはりそういうシステム構築に当たっては、将来的に

それらのシステム間の連携を図る、あるいは新たなサービスが出てくるというようなことを想定して、それに共通なプラットフォームというのを少なくとも意識してつくることが極めて重要であろうということで、11のシステムのうちでも、そういう連携ということに結びつきやすいのではないかと考えられる、新たなものづくりシステム、エネルギーバリューチェーンの最適化、高度道路交通システム、に特に着目いたしまして、他のシステムと連携するときに重要な役割を果たすのではないかとと思われるデータベースとして、ここに書いてありますような、ヒト・モノ・位置情報、映像情報、地球環境情報、異業種間流通促進、三次元地図情報という5つのデータベースというのを特に取り上げているということでございます。

それで、これらのデータベースを構築する、あるいはその上にシステムを構築するというのに当たって、共通となる基盤技術といたしまして、AI、ビッグデータ、サイバーセキュリティというようなものを考えているということでございます。

それで、3ページ目に行っていただきまして、特にその中でのAI、人工知能に関しましては、既に久間会長の方から御説明ございましたように、文部科学省、総務省、経産省、それぞれ今AIについて研究を進めているということでもって、また、それら全体のかじ取りを担う者といたしまして、人工知能技術戦略会議というものが設置されているというところで、それらと連携をとりながら、特に日本が強みを有する出口分野、それからAIの効果が大きいと思われる出口分野というものについて、重点的に議論するというようなことで進めているところでございます。

それから4ページ目につきましては、先ほど申し上げましたように、当面、それぞれのシステムをきちんとつくり上げていくことが大事ということで、それぞれのシステムを構築するに当たってどのようなデータベースを構築する必要があるかということにつきましては、それぞれのシステムに対応した戦略協議会あるいはワーキンググループというものと連携して検討させていただきたいというところでございます。

次の5ページ目の方では、先ほど申し上げましたように、それをするに当たって、あるいはその先というときに、さらに今後システム間連携を行うというようなときに考えられるユースケースというものをピックアップいたしまして、それと連携したデータベースということで先ほど挙げました5つの基盤データベースというものを取り上げまして、それらを使うための通信インターフェースですとかデータフォーマットというものにつきまして、具体的にその分野に知見をお持ちの方に中心になっていただきまして、現在鋭意検討を進めているというところでございます。

6 ページの方に検討スケジュールということで書かせていただいておりますけれども、そういう今申し上げましたような個々のものにつきまして具体的な検討を深掘りするための実務者会合というものを現在進めているというところでございまして、システム基盤技術検討会そのものにつきましては、その検討状況を見て一応秋口からまた検討を進めるという予定でございます。

それで、7 ページの実務者会合での検討項目ということでございますけれども、各システムで必要となるデータベースについての通信インターフェースやデータフォーマットについて検討をするということに加えて、そういうものを実際につくるとしたら、どういう立場の人がそのデータベース構築を担うべきであるのか、それからそれをどういうふうにしたら利活用できるのかというような道筋についても検討を行っているということでございます。

それで8 ページの方では、実務者会合での実際の検討分野といたしましては、先ほど言いました5つのデータベースについてそれぞれ担当する有識者の人というものに加えて、サイバーセキュリティ、それからそのシステムアーキテクチャの有識者というものを加えて、7名程度の比較的小さい人数で非常に突っ込んだ議論を行い、これらの結果を受けてシステム基盤技術検討会で検討を進めるということを検討いたしております。

最後9 ページと10 ページにつきましては、人工知能技術戦略会議についてということで、これについては御参考にいただければと思います。

以上でございます。

#### 【久間議員】

どうもありがとうございました。

続きまして、ナノテクノロジー・材料基盤技術検討会の報告をしていただき、その後でこの2つについての議論を進めさせていただきます。

では、塚本委員お願いいたします。

#### 【塚本委員】

それでは、お手元の資料に沿って御説明します。

まず1 ページですが、これはあくまで概念図なんです、ナノテク・材料というのは基本的にはシステムから非常に遠い存在なんです、イメージとしては先ほど来、御説明のある11のシステムの中でどういうデバイスが要るか、どういうアクチュエータ、インフラが要るか

というようなことから、材料側にある要求項目が出てくるだろうと。一方で、材料・ナノテクの側からも、こういう材料がこの辺までいきそうだとか、こういう技術が新しく使えそうだとか、そういう話がありますから、そういうのをどんどん御提供しながら逆にシステム側に活用していただくと、そういうのを連携しながらやろうと。

概念としては非常にうまく書けるんですが、現実にはなかなか難しいということで、次の2ページをごらんいただきたいんですが。

実際にシステムが今まさしくアイエヌジーでいろんなことが検討されているんです。一方で、ナノテク・材料も日進月歩しています。したがって、連携って口で言うほど必ずしも簡単にはいかない。しかも非常にブロードに技術が広がっていますから。そういう意味で、私の思いとしては、この手の委員会は非常に重要なんですが、連携を一過性の委員会でハンドリングするのはかなり難しいだろうということで、本来、連携を常時見てとるような組織機能が要るだろうと思っております。ただ、それはなかなか一朝一夕にはつくれませんので、現実にはJSTとNEDO、あるいは両シンクタンクなんかを巻き込みながら、どうやって戦略的にそれを組み上げていくかということをやっていきたい。

実は、この議論は既に上山先生だとか久間先生なんかにも入っていただいて、少し会議外でちょっと議論もさせていただいたんですが、2ページ目の右の一番下に書いていますように、いきなり機能だ何だと言ってもしょうがないので、具体論としてナノ材とエネルギーの関係のところで具体的に少し意見交換をするところから、少しどう見えるか議論してみようよという方向で今動いています。

次のページ、その具体論ですが、3つの枠組みで考えています。いずれはそれを常時ウォッチするような組織機能にしていきたいと思っておりますが、まず1つは、ナノとシステムの情報交換を常時やろうと。それはいきなり11システム全部できませんので、先ほど来説明にある3つのコアシステムの一つであるエネルギーバリューチェーン、エネルギーシステム、これは柏木先生のところと少し連携させていただいて、まずこれを一つのひな形にして、JSTのCRDS、あるいはNEDOのTSC、あるいは産業界代表のNBCI、これはナノテクビジネス推進協議会の略称ですが、産業界からも委員を出していただいて、具体的にどういう見え方がするか少し整理してみよう。

検討会2と書いていますのは、一方で、そのシステムの連携以前に材料あるいはナノテクそのものがどういう技術が今どう進行していて、世界競争の中でどういう位置づけにあるか、これは当然、常時議論する必要がありますので。ここはどっちかというと、ナノテクを専門にす

る方々がクローズの世界で議論もできるだろうと。そういうことで、ここにも産業界以外にも、当然ながら、文科省、経産省にも入っていただいて、少し技術論をきちっとやっていこうと。これをナノ材をモデルケースにして、いずれほかにも展開していこうという考えをしています。

それから3つ目に、実務者連絡会。これ案外忘れがちなんですが、実際にこれ、現実に行うとすると、EHS、環境、健康、安全ですね、そのあたりのことを忘れがちだと。特にナノ材というのと、常に環境問題、あるいは健康問題を抱えていますので。そういう社会受容に向けてどう動いていくかという、ナノ材の安全の問題に関する実務者会合。それから一方で、11のシステムの一つであるマテリアルズインテグレーション、情報統合型の材料開発システム、これを一つ回しながら、その3つの会議体をうまく連携させながら戦略を構築していきたいという考えをしております。

どんな運営で進めようかということで次の4ページですが、既に実務者会議なんか一部始めております。基本的には11月、今年中にはナノ材の分科会としては総合戦略をまとめていきたいと。これは全て網羅できるとは思っていません。まずはエネルギー戦略協議会なんかと連携しながら、3つのコアシステムを中心にまず議論を整理をしていく。それをどんどん広げて、いずれ11のシステム全体を統合しながら見ていくかということを考えています。

今後、高度道路交通システムとか、新しいものづくりのシステム、3つのコアシステムに横展開をしていくという考えをしています。

こんな考え方で、例えばで申し上げますと添付資料6ページに書いていますが、先ほど相田先生からも話がありましたけれども、既にシステム協議会の方でユースケースをいろいろ考えていただいていますので、その中からも既にセンサーアクチュエータの世界でどういうものが要りそうだということは一部出ておりますので、そんなあたりを一つのきっかけにして話を進めたい。

それから7ページに書いています、これはエネルギー・環境イノベーション戦略の中で、今後どういうシステム、どういうものが要るか、技術課題として例えば、で申し上げますと、無給電型のセンサーが当然ながら要るというようなことが言われていますが、そんなあたりをナノテク材料側からもどうアプローチするかということを議論できればと思っております。

以上です。

【久間議員】

どうもありがとうございました。

Society 5.0を実現する上で、システム基盤は、主としてサイバー空間でのコアテクノロジーです。それから、ナノテク関係は、フィジカル空間でのコアテクノロジーの一つで、重要な課題と思います。

それでは、この2つの課題について自由討議に入りたいと思います。まず、システム基盤について御意見がある方、御発言をお願いします。

その前に、副座長の田中委員、何か補足することありますか。

#### 【田中委員】

副座長の田中でございます。

先ほどの相田先生が御説明された2ページの資料ですけれども、ここで11のコアシステムというのが定義されていて、これを連携させていくということになってくるとお互いに何か影響が出ないかなと思われる方が多分多いと思うんですね。

特にシステム基盤として今考えていますのは、SOSというシステム・オブ・システムズというキーワードを聞かれた方があると思うんですけれども、システム・オブ・システムの一つの特徴として、それを構成するサブシステム自体は独立に開発されて、それが独立に運用されるという特性があるんですね。ですから、ここの上の11の例えば2つをくっつけても、それぞれの元の11個の個々のシステムというのは互いに影響されずに独自にやれるという特性がありますので、それをうまく使うと、例えば道路交通とインフラ維持管理が何か一緒にやろうとしたときに、既に開発が始まって、社会実装まで行って運用化される状態になっても、例えばインフラから何か影響があるので、道路交通システムの計画を変える必要があるということにはならないということがわかっているというか、そういう特性があるので、そういう観点から、データベースというか、その下の基盤技術とデータベースというものをSOSという視点で取りまとめていきたいなというふうに思っています。のシステム工学的にアプローチをして、この議論をまとめていくと、そういうSOSというのがもともと持っている特性がうまく使えて、11のシステムはどんどん開発していただいて、それをうまく束ねるための基盤ができ上がるんじゃないかなと思っております。

#### 【久間議員】

ありがとうございます。

それでは、柏木先生、エネルギーという視点から一言お願いします。

【柏木委員】

エネルギー自体は、今まで需要ありきでメガインフラをつくってきたわけですが、今のサイバー層という新しいデジタル層ができることによって、物理的なものとサイバー空間とが一致することになります。ですから、非常にきめ細かなエネルギー需給構造が成り立って、特にやっぱりデマンドリスポンスが重要で、デマンドを変化させながら、最も適切なエネルギーの需給構造をつくっていくということで、今、最後に塚本先生がおっしゃっていただいた7ページ目のエネルギー・環境イノベーション戦略があります。これは比較的長期戦で、久間先生とも御相談をさせていただきながらつくってきた一つの大きな柱が、これからのパワエレ（エレクトロニクス）とエネルギーマネジメントです。エネルギーセンシングと書いてありますけれども、I o Tなんていうのはどっちかというとサイバー層に入っているもので、それを構成する要素技術がセンサーなくしてI o Tなしと。

エネルギーも、ですから、いろんなところにセンサーが、今、250億個ぐらい使われていると言っていますけれども、あと10年で数十倍にふえるだろうと思います。数千億個ということになりますと、このセンサー、これがなくしてサイバー層は動かないというふうに考えております。

ですから、このナノテク・材料と、この個々の材料、それからそれをシステム化した、このエネルギーシステムを実現することで、非常にいいアライアンスができてくるというふうに私は考えております。

そういう意味では、今、エネルギーでは久間先生からこの会議を通して首相に言っていた内容を大きく分ければ、パワエレ、それからエネルギーマネジメント、この中にI o T、センシング、それからエネルギー貯蔵、これが水素、あるいは超電導なんかもある意味ではエネルギー貯蔵、電力貯蔵になるし、もちろん蓄電システムもそうだし。あともう一つはコプロダクションというか、これは電力、熱、物質、統合的にとらえることができます。この4つのキーワードがこの戦略に散りばめられています。

ですから、その中でコアとなるナノテクと一緒にやることの重要性というのは、今まさに重みが増してきたというふうに思っておりまして、ぜひ9月と言わず、もっと早くでもアライアンスを組んだ連携体をつくって、本格的に社会実装できるようにしたい、こういう考えを持っています。

【久間議員】

どうもありがとうございます。よろしくお願いします。

エネルギーシステムは、Society 5.0 実現に向けた11システムの中でも最も重要なシステムの一つです。しかも喫緊の課題と思いますので、ぜひよろしくお願いします。

続きまして、同じように喫緊の課題である自動走行システムについて、葛巻委員いかがですか。

【葛巻委員】

ちょっと質問に近い形になるのですが、5ページの映像情報で「カメラ画像のプラットフォーム化をCOCNに取組推進。プライバシー問題含めプラットフォーム化の課題を検討中。」とありますけれども、カメラ画像というと、何かほかのいろいろなデータベースの構成要素になるような気がしてしまっていて、ここで画像だけを集めるデータベースというのは、どういう目的のどういうものなのかというのを教えていただきたいのと、多分、自動走行の地図のところでも、地図の情報を車から画像で上げて、その後、地図を更新するというようなことも考えなきゃいけないのですけれども、そのときに何を配慮しておかなきゃいけないか。そのあたり、先ほどシステム・オブ・システムズで影響はないと言われましたけれども、何か影響があるのではないかなという気がして、ちょっとその辺お聞きしたいなと思います。

【久間議員】

では、相田委員、よろしいですか。

【相田委員】

これは、ただ単に映像を片っ端から集めたデータベースがあるというよりも、やはりプラットフォームですので、そういう映像データベースをつくるとしたら、こういうような枠組みでつくったらいいよというものがまずあって、それでその中に実際にどういう画像を集めたデータベースにするかというのは、多分やはりシステムに応じてそれぞれのデータベースを検討すべきであり、全部ごっちゃに一つの画像データベースにするということを意図しているのではないというふうに理解しておりますが、それでよろしいでしょうか。

【葛巻委員】

プライバシーの問題等をここでいろいろやっていただくというのは非常にありがたいというか、必ずその問題が出てくるなと思っておりますので、また何かありましたら、その辺連携をしっかりとっていききたいなと思っています。

【久間議員】

住委員、どうぞ。

【住委員】

これはデータベースを考えられて非常にいいと思うんですが、1つ配慮していただきたいのは、データの保存の問題なんですね。多分、使い捨て型で、そのときに何もなければ消してしまっぐるぐる回すというデータなら良いのですが、特に地球環境から見ますと継続して保存してゆく必要がある。そのランニングコストは結構かさむんですね。ましてや、さらにサイバースペースで保存すればデンシティがどんどん上がっていくから、どれだけでもつかという問題は置いておいても何とかなると言うかもしれませんが、生態系などで依然サンプルだとかの物の環境情報があるんですね。そうすると文化財もそうなんですけれども、そういう物質的なものをちゃんと保存していくということは、やっぱり必要になってきますので、そういう点でどういうふうに長期にわたってこれからも維持していくかという視点は常に考えていただきたい。そうじゃないと現場が電気代で困るみたいなことが起きますので、それをシステム的设计の中でも常に運営していくことを視点に入れて、最適なシステム設計をしていただきたいなと思います。

【久間議員】

貴重な御意見だと思います。4ページのデータベース構築については、戦略協議会、ワーキンググループで検討していきますが、今、住委員がご指摘されたことも含めて検討していきたいと思います。

それでは、システム基盤技術検討会に関して御意見がある方、どうぞ御発言ください。

住委員にお願いしたいのは、地球環境に関わるシステムはエネルギーにしても、自動走行にしても、連携すべき分野だと思います。そういった観点で何かお考えがありますか。

【住委員】

それほどのことはまだ考えているわけじゃないんですけれども、連携して提供する部分に介してはシステムの進んできたと思うんですが、やはりセンサー技術とか観測技術など地球環境に関しては、情報を得るところに問題があるんですね。しかも、セキュリティ関係が問題で、例えば地理情報でもそうですけど、結構機密情報とほぼ表裏みたいなところがありますので、グローバルという観点で考えたときには、全然違う問題だと考えています。だから日本だけの視点で環境情報を作ってゆくことと、グローバルな視点で、例えばアフリカだとか何とかだといったときの、そこをどう考えるかというのは、やっぱりこれから考えることだと思います。

【久間議員】

エネルギーシステムと、CO<sub>2</sub>排出量等を含めた地球環境システムは当然関係していますね。しかし、データベース等をどう使うかとなると、なかなか難しいものです。ですから、その辺も含めて、これからの戦略協議会で議論してもらいたいと思います。

塚本委員、どうぞ。

【塚本委員】

セキュリティだとかも含めて、私、全くその世界素人なんですけど、データベースの世界をどうするかと、今の議論の中で、グローバルにどう見るかということに触発された発言なんですけど、もともといろんなシステムにデータベースが当然要るんですが、データベースが下手するとサイバー空間の中で日本に閉ざされて、下手するとグローバルに開けていないと。

例えば、Big Data Landscapeってネットで見るとすぐ出てきますけれども、要はビッグデータのAIの世界は、今、どんな企業、どんなシステムが動いているかというホームページがあるんですが、そこなんか見ると500社ぐらいが参加していて、残念ながら日本のメーカーは1社も入っていないですね。ほとんどがグーグルとかアマゾンとかヒューレットパッカーとか、そういうところに牛耳られている感じがあって。

その中には、データベースそのもののインフラとかアプリケーションとかアナリシスとか、既にいろんな動きがあって、全体でいくとアメリカが大半で、イスラエルが一部入っていて、残念ながら日本の企業は影も形もないというようなことで。そうすると、サイバー空間で我々閉ざされてしまうと世界に広がらないから、下手するとサイバー空間がガラパゴスになってしまって、いざ世界の産業の中で日本が戦おうというときには、何となく日本のは親和性が悪いとか、そんなことになってしまうんじゃないかなという危惧を大変しているんですが、その辺

は御専門の方、いかがなんでしょうか。

【相田委員】

少なくともこちらとしてガラパゴスをつくるつもりは全くなくて、既に外国で、先ほど言いましたインターフェースとかいうようなもので標準的なものがあるのでしたら、それをどんどん取り入れていくと良いかと思います。実際のデータの流通ができるかというのは、またもう一つちょっと別次元の問題ではありますけれども、あるものは基本的にはそれを使っていくという方針です。ただ単にガラパゴスをつくることは少なくともないというふうに考えております。

【久間議員】

それでは時間ですので、ナノテクとシステムとの連携に議論を移したいと思います。須藤委員、ご意見ありますか。

【須藤委員】

私、エネルギー戦略協議会で副座長をやっておりますけれども、最初にエネルギー戦略協議会と一緒に検討するというのを選んでいただいて非常にうれしく思っています。

塚本さんがお話しになった1ページ目の図、これが非常に大事だと思っていまして、協議会側から必要なスペックをちゃんと出さないと、多分ナノテクの方でも出てこないと思います。最初に打ち合わせやると言われたんですけれども、まだまだ戦略協議会の方で、こちら側のスペックが今完全かというのと、ちょっと難しいなと思っています。ぜひ最初に打ち合わせをやる前に、少し小さなグループでもいいんですけれども、事前にある程度エネルギーとしてはこういうデータが必要で、これぐらいの間隔で取る必要があるとか、いろんな細かいスペックがつくる側、送る側、使う側で全然違いますので、そのところを少し詰めてからやらないと、もしかしたら無駄に終わってしまう可能性があります。我々の方でも事前に相当詰めなきゃいけないと思っておりますけれども、事前の検討が必要という気がしています。

【塚本委員】

おっしゃるとおりで、ぜひワーキンググループみたいな形で実務ベースで少しすり合わせをしながら、ある形で進めたいと思っております。ぜひよろしくお願いします。

【久間議員】

特にエネルギーの関係では、発電機、自動車、航空機などは、S I Pの岸P Dの革新的構造材料や、I m P A C Tの伊藤P Mのタフポリマーなどのプロジェクトがあります。それらとも連動させながら、システムと材料の連携を考えていただきたいと思います。

インフラ関係で、渡辺委員どうですか。

【渡辺（裕）委員】

先ほどのシステム基盤と関係する話になりますけれども、正直言いましてインフラ関係というのは技術のスピードといいますか、スパンで考えると、ほかの技術よりは長いといいますか、50年前につくったものをどうやって維持するかとか、点検するかとか、そういう課題が今、最大の課題なのですけれども、デジタル時代のその前の時代につくったものということで、データベースすらないし、どうやってつくるんだというような、非常にプリミティブなところでも非常に大きな課題を抱えてしまっています。ですから、図面のデジタル化だとか、そんなことまでも戻っていかないと、データベースを構築するということまでいかないというふうな、ほかの技術テーマとは非常に変わった課題を抱えているというふうな認識を持っております。

【久間議員】

ナノテクとシステムとの連携について、御意見ある方、どうぞ御自由に御発言ください。

田中委員、どうぞ。

【田中委員】

今の渡辺さんの意見で補足です。

私は、S I Pのインフラ維持管理のサブP Dもやっているんですけれども、実はそのS I Pの中で、材料開発というテーマが採択されているんですね、たしかコンクリートと金属だったと思うんですけれども。そういうところで既にテーマが走っているので、一度どのような材料があればインフラ側にうれしいかというような議論もできるのかなと思って今聞いていました。

【久間議員】

ありがとうございます。

とりあえずエネルギーから始めるけれども、インフラ、そしてものづくりと広げていきたい  
と思います。よろしくお願いいたします。

今村委員、どうぞ。

【今村委員】

6 ページのところで地域包括ケアのシステムのところでユースケースを非常にたくさん挙げて  
いただいて、非常に興味深く拝見していたのですけれども、これ具体的には我々のところの  
協議会、ワーキングと、今後何か具体的に進めていくために、ほかの会議と同様の何か連携の  
ための意見交換をするような場をつくっていただくことができるということによろしいんでし  
ょうか。

【塚本委員】

タイミングを考えさせて下さい。11システムがありますから、まずは先ほど来、久間先生  
がおっしゃったような3つのコアシステム、これを優先します。ぜひ、いろんなところで  
やっていきたいんですが、残念ながらそうあんまり広げると虻蜂取らずになりますので、その  
辺はぜひ相談させていただきながら進めればと思っております。

【今村委員】

ありがとうございます。

【久間議員】

よろしくお願いします。

ほかに御意見ありますでしょうか。澁澤委員、どうぞ。

【澁澤委員】

農業分科会の澁澤です。

このユースケースの中で、エネルギーバリューチェーンの6 ページの下側に農業という記載  
がありまして、この中で食材のトレーサビリティ、ID管理、施設が挙げられております。  
ありがとうございます。

農業分野では、センサー利用が非常に大事ですが、高温あるいは過湿などの、非常に条件が悪い状態で長期に使わなきゃならないので、それに耐えられるような、低価格で、かつ安定利用できるようなものがなかなか見当たりません。新しいセンサーの開発や、その運用の仕組みについて非常に期待をしております。

それから、特にトレーサビリティのところでは、単にデータを取るだけではなくて、同時に食材や物材の流通、それを管理する人々と運用の仕組み、そこに流通するデータの共有性、多様なステークホルダーを対象にした使い方など、合わせて検討していただけたらありがたいなと思います。農業分科会の方でも、このあたりは検討していきたいと思います。

以上です。

【久間議員】

ありがとうございます。

波多野委員、どうぞ。

【波多野委員】

今、いろんなニーズがあるように、たくさんのニーズがやはり材料やセンサーについてあると思いますけれども、しかもそれは共通で使える技術もかなりあると思うんですね。ですので、今回は、まずはエネルギーに特化して始めるんですけれども、やはりニーズは早目に伺って、センサー、材料のコア技術の開発には相当時間もかかりますので。それは世界で初めてできるような、差別化できるものは、やはり大変かもしれませんが、ここはこのチャンスでニーズを早くつかんでいくと。それで、どういうセンサー、共通で開発できるものは共通で開発して、医療用とか、自動走行用と、私もセンサーやっていますけれども、医療用で使えてエネルギーにも使えるものがありますので、そういうところを一度地図をつくっていくことが重要ななと思いました。

【久間議員】

ありがとうございます。

日本が強いのは、フィジカル空間の産業です。その中でも材料は、日本が得意な分野ですよ。ここが弱くなったら元も子もない。ですから非常に重要なテーマだと思います。とりあえずエネルギーから始めますが、他の戦略協議会やワーキングの方々にも、活発に問題提起をし

ていただきたいと思います。必要に応じて、同時並行で検討いただくことも検討しますので、ぜひよろしくお願いいたします。

時間も来ましたので、議題２の議論はここで終わりたいと思います。ありがとうございました。

次に、議題３に移ります。

地域における人とからしのワーキンググループでは、総合戦略２０１６に沿った民間企業の取組を、重きを置くべき施策として特定する予定です。その取りまとめ方について御報告いただきます。

今村委員、よろしくお願いします。

#### 【今村委員】

座長を務めております今村でございます。

今、久間先生からもお話しございました前回の４月１１日開催の重要課題専門調査会において総合戦略２０１６での重きを置くべき取組において、民間企業での研究開発プロジェクトについても募集を行って、事業として認定を行うという提案をさせていただいたところですが、久間会長から御快諾の発言をいただきまして、本当にありがとうございました。

久間会長からの御快諾を受けて、地域における人とからしのワーキンググループに持ち帰り、検討を行わせていただいているところですので、その検討状況について御報告をさせていただきますと思います。

資料につきましては、資料３－１と３－２でございます。

今回資料として御提示させていただいている２点でございますけれども、事務局からの提示された公募要綱の素案ということで、３－２の方が概要版になっておりまして、３－１の方がその詳細版ということになります。

３－２の方を見ていただきますと、まず１ページ目に目的、そして対象領域ということが書かれております。対象領域は、まず地域包括ケアシステムの推進の部分、地域における人とからしのシステムで規定されているところとしております。裏面を見ていただきますと、応募に関する諸条件、そして課題の評価、評価結果等の通知及び公表と、こういう立て付けになっているところなんです。

資料３－１は、その詳細について書かれたものであります。

この提案につきましては、ワーキンググループの構成員からかなりさまざまな意見、要望が

出されているところで、私とワーキングの事務局で取りまとめを現在行っているところです。

また、民間研究開発プロジェクトの公募に先立って、現在のワーキンググループの構成員だけでは受け切れない専門部分もあるかと思しますので、今後、民間提案に適切に対応できる人員のワーキングへの参画、及びその根拠となる地域における人とかのワーキンググループ運営要綱の見直しも必要というふうに強く考えておりまして、事務局に現在お願いをしているところです。

以上、民間プロジェクトの公募要綱とワーキンググループの運営要綱及び委員の追加につきましては、久間会長先生らC S T Iの先生方の御意見もいただきながら策定を進める予定ですが、内容の詳細につきましては、私と地域における人とかのワーキンググループに御一任をいただければというふうに考えております。

よろしくお願いいたします。

報告は以上でございます。

#### 【久間議員】

どうもありがとうございます。

新しい試みを今村委員から御提案いただきました。どうもありがとうございます。本件に関しまして、御意見ありましたら御自由にお願いします。

どういう応募があるか楽しみにしておりますが、皆さんにも審査いただくことになると思いますので、よろしくお願いします。

原山先生、御意見ありますか。

#### 【原山議員】

通常、政府のお金を使ったプロジェクトに、我々は関与してきたんですけども、そうじゃないある種のボトムアップの民間の動きの動向を捉えなくてはいけないという問題意識からこれがスタートしています。

意図するところは、まさにビジネスの話であって、それが社会の暮らしを変えていくというロジックでもって、それを見える化することによって、呼び水となり、ほかのところからも資本が入るであろう。また、政府のアプローチもあり得るわけで、そのきっかけをつくろうというのがこの新たな試みで、多分この試みというのは、このフィールドだけではなく、ほかの分野にもつながると思いますので、やってみないことにはわからないので、やってみて、応用範

囲として広げていくということを念頭に置きながらやっていただければと思います。

【久間議員】

おもしろい計画が出てくることを期待しておりますので、よろしくお願いします。

新井委員、どうぞ。

【新井委員】

申請書について申し上げます。最近、大学等でも研究を行うときには、数値目標を入れるようにという方向にあります。本開発プロジェクトの公募においても、具体的な、例えばどうい  
うことに関して何人をどうするとか、何%どうかするとかという数値目標が入るような申請  
書のあり方の方がPDCAを回しやすいのではないのでしょうか。そうでないと単にNPO等の  
活動支援でお金が終わってしまう、というような懸念が生じるかと思っています。

【久間議員】

貴重な御意見ありがとうございます。まさにそのとおりだと思います。

ほかに御意見ございますか。須藤委員、どうぞ。

【須藤委員】

この試みは初めてなので、多分、民間の企業も余りわからないと思います。これをどうやっ  
て周知徹底するかというのは、恐らく秋ごろからと書いてありますので、例えば経団連とかC  
OCNとかに声をかけていただいて周知徹底を図るとか、何かそういうことをしないと、これ  
だけでぽっと公募されても、なかなか難しいかなという気がします。ぜひその辺の周知徹底の  
方をよろしくお願いします。

【久間議員】

ありがとうございます。

経団連、CCCNなどへの周知は行いたいと思います。

渡辺委員、どうぞ。

【渡辺（美）委員】

こういう試みは非常に大事だと思います。概要版の資料３－２を見させていただいても、少子化と高齢化をちゃんと分けていますし、人口減少に対して持続可能にするということが書いてあり、大変明確です。一方、従来とは違う新しい取組みについても触れていただくことも必要だと思いますので、従来のように同じような専門家が集まって議論するというよりは、いろいろな方が一緒に議論しながら新たな価値を創出し、そして新たな産業を創出していくというようにところに力点を置いて書いていただけると、若い方々も非常に参加しやすいのではないかと思います。

【久間議員】

ありがとうございます。

今村委員、よろしいでしょうか。

【今村委員】

はい、ありがとうございました。

【久間議員】

多くの貴重な御意見をありがとうございました。

それでは次の議題４に移りたいと思います。

総合戦略２０１６に基づく各府省ヒアリングについて、事務局から説明してください。

【布施田参事官】

事務局でございます。資料４に基づきまして御説明させていただきます。

本年度も科学技術イノベーション総合戦略に基づく施策の特定ということを進めさせていただきます。

資料をめくっていただきまして２ページ目でございますが、やりますことは、来年度の関係府省の予算編成におきまして、総合戦略２０１６に基づいている各府省の施策を特定化していくということでございます。具体的には、総合戦略２０１６の中に重きを置くべき取組ということで、幾つもの取組候補が列記されてございます。それに関する関係府省の施策を特定していくものでございます。特定した後は、財政当局ですとか、他の司令塔本部にも御説明をし

て連携を深めていくということでございますし、またこのプロセスの中で課題とか出てきましたら、翌年の総合戦略2017の中につなげていくというものでございます。

めくっていただきまして3ページ目に全体のスケジュールがございます。

この表の上半分が全体スケジュールでございまして、先月、6月14日に予算戦略会議というものを開催してございまして、関係省庁に対して総合戦略2016の内容を反映した施策要求を依頼しているところでございます。現在、各府省とまさしく調整をしているところでございまして、ヒアリングもして特定をしていきたいと考えております。8月末が予算の概算要求の提出期限でございますので、それまでに特定をしていきたいと思っております。特定したものは9月のところでございますが、C S T I 本会議にて決定をしていきたいと思っております。その後、財務当局の予算の査定がございまして、12月末には政府予算案が決定するという全体のスケジュールでございます。

ヒアリングですが、科学技術イノベーション政策推進専門調査会というグループと、この重要課題専門調査会、本グループの方でそれぞれ進めてまいります。

4ページ目に、そのヒアリングの対象、総合戦略のどの部分についてやるかということでございますが、4ページのまず左側が第1章です。未来の産業創造、社会変革への取組ということでございまして、その中に(2)のところに、「S o c i e t y 5 . 0」を実現するプラットフォームというかたまりがございます。これに関連する各府省施策を特定していきますし、(3)には基盤技術の強化がございます。こちらがA I ですとか、先ほど議論いただきましたナノテクノロジー関係の施策は、ここの中で特定をしていきます。

右側の第2章でございますが、こちらは経済・社会的課題ということで、11システムに関連する施策を特定してまいります。この中ほどに(1)のⅡのi)のところに、世界最先端の医療技術の実現による健康長寿社会の形成とございますが、こちらは健康・医療戦略室と連携をしながらヒアリングを進めていきます。

また、今年から新しく入った項目が一番下の(2)の中のⅢ、国家安全保障上の諸課題への対応ということで、テロ対策ですとか、国家安全保障上に関係する技術というものも施策の特定を進めていく予定にしております。

あと5ページ、6ページは今後の細かいことが書いてございますが、例えば、5ページの2.の中ほどにございますが、これまで施策といいますと予算施策を特定していたのですけれども、その研究開発を社会実装につなげていくために、予算施策ではない施策、例えば実証ですとか、標準化を進めるとか、各府省の定常業務でやっているようなこと、そういうものも提案してい

ただきたいというふうに考えているところでございます。

6 ページ、7 ページに、これらのヒアリングのスケジュールを書いております。ちょっと多いのですが、全体で12回のヒアリングを考えてございます。システムごとに行います。

中ほどに、これらのヒアリングに参加いたしますC S T I議員の名前が入っておりますし、右側に各ヒアリングに御参加いただきます有識者の方々のお名前が入っております。この重要課題専門調査会の各戦略協議会またはワーキンググループのメンバーの方々、またこの分野の有識者の方々に構成されてございます。この有識者の方々に下線を引いているところの方がリーダーということでございまして、ヒアリングのファシリテートをしていただくことになってございます。

このようなシステム化でヒアリングをしていきますのは、今年が2年目になります。去年初めてシステム化をいたしましたので、今年はさらなるシステム高度化の観点ですとか、システムを構成している各コンポーネント、個別技術の中でもきらりと光るものについて、それもまた重要なものでございますので、それを個別技術としてしっかり取り上げていくということの観点から各ヒアリングをしていただく予定になってございます。

本日来られている方々にもヒアリングに参加していただくことになります。よろしくお願いいたします。また、リーダーの方は、この会合が終わった後、ヒアリング全体の進め方なども御説明させていただきたいと思いますので、リーダーの方は本日残っていただきますよう、よろしくお願いいたします。

資料の説明は以上でございます。

#### 【久間議員】

どうもありがとうございました。

ヒアリングですが、2年前は、個別案件に対するヒアリングでした。昨年からシステムとしてヒアリングをすることにしました。しかし、関係する施策をグルーピングすることまではできたのですが、なかなかシステム化ができない。今年は第5期基本計画ができましたので、一歩進んでS o c i e t y 5. 0という切り口でヒアリングを行いたいと思います。

しかし、個別の技術や機器でもきらりと光るものがあるわけですから、そういったものは従来通りに個別ヒアリングをするという2本立てでやっていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

この件に関しまして、御意見ありましたらお願いします。

布施田参事官、どうぞ。

【布施田参事官】

すみません、事務局でございます。

ヒアリングのグルーピングで説明が抜けてございました。申しわけございません。

システムごとにグルーピングをしておりますが、かなり大きなシステム、例えばエネルギーバリューチェーンの最適化のところですが、総合戦略ではエネルギーが大きく7項目に分かれているのですけれども、その中の1つにデバイスというのが入ってございまして、そのエネルギーの要素技術につきましては、7ページの10番目のヒアリングのところでデバイス系と一緒にナノ材という形でヒアリングさせていただきたいと思います。

以上です。

【久間議員】

それでは、御意見ありましたらよろしくお願いします。

今年は、それぞれのヒアリンググループ、特に座長の方々は大変だと思いますが、ぜひよろしくお願いします。

他に御意見はよろしいでしょうか。

どうもありがとうございます。

では最後に、議題5のエネルギー・環境イノベーション戦略推進WGの設置について事務局から説明をお願いします。

【布施田参事官】

事務局でございます。資料5-1をごらんください。

この重要課題専門調査会の下に、今4つの協議会がございまして、その他ワーキンググループ、あと検討会、分科会とございますが、それはこの調査会で決定してございます戦略協議会等の設置についてという本資料にて規定してございます。

これまで、特にこの資料の別紙の絵を見ていただきたいのですけれども、ここではエネルギー・環境イノベーション戦略推進WGと、もう既に書いてございますが、ここがこれまでエネルギー・環境イノベーション戦略策定ワーキンググループでございました。鋭意活動していただきまして、今年の4月に閣議決定されましたエネルギー・環境イノベーション戦略をまとめ

ていただいたわけでございます。

今後でございますが、そのまもめていただいたエネルギー・環境イノベーション戦略を推進していくという役割をこのワーキンググループは持つということでございますので、このたび名称をエネルギー・環境イノベーション戦略推進WGと変えさせていただきたいと思います。事務手続上、この調査会の方で、戦略協議会の設置という紙の別紙を変更する手続をさせていただきますので、御了承いただきたくお願いいたします。

あと、資料5-2には、こちらは改めてではございますけれども、各戦略協議会、ワーキンググループ、今御紹介いたしました推進ワーキンググループの検討対象を書いてございます。御参考にしてください。

説明は以上でございます。

#### 【久間議員】

ありがとうございます。

このエネルギー・環境イノベーション戦略を、御存じない委員もいらっしゃると思いますので、これを取りまもめていただいた柏木委員から、簡単にご説明いただけますか。

#### 【柏木委員】

塚本先生のこの一番最初、先ほど全部お話ししてしまったんですけれども、首相がCOP21対応に対して2度とか1.5度上昇に抑えるために、日本の独自とする技術を利用して、それを世界に普及させていきたいということで、私がワーキンググループでまもめさせていただいたものが、塚本先生のこの資料の7ページ目のものです。一応概要だけ書いてありまして、これはあくまでもナノテクとのコラボレーションが、でき得るところだけピックアップしてあるというふうに思っておりまして、超スマート社会という内容に沿った形で、サイバー層という中にエネルギーとインターネットの融合する、IoTであるとか、AI、ビッグデータみたいなものの、こういうサイバーレイヤーにある統合化技術と、それを構成するコア技術としてパワーエレクトロニクスと次世代センサーと、この超電導と。これは日本が最も得意とするところだと思います。

あと省エネだとか、あるいは省エネルギーに関しては、高温の材料だとか、あるいは膜だとか、触媒だとか、こういうのも出てありまして、創エネルギーに関しては間違いなく太陽光だとか地熱発電とか、こういう地熱でも比較的水分の少ないホットドライロックのような高温岩帯発電みたいなものまで中に、一応日本の独自として入れております。エネルギー貯蔵は水素、

それも長期的にはCO<sub>2</sub>フリーの水素製造、それからあとは蓄電システムというもの。それは蓄電もわかりやすく言うということになりますと、1回の充電で700キロ走る車をつくる。その車のための蓄電池システムをつくる。内容的には、今のコストの10分の1で、蓄エネルギー密度が7倍になるようなものを開発していくと、こういう数値目標まで入れております。

もう一つがCCUという形で、CCUSと言った方がいいかもしれませんが、カーボンキャプチャー・アンド・ユートライゼーションということで、例えば石炭火力発電を輸出しているときに、日本の技術でいけば、昔だったら超々臨界か何かで高効率のものを輸出していくというところで終わっていたものを、もう一つ踏み込んで、出てくるCO<sub>2</sub>を回収して、そしてCO<sub>2</sub>リッチのプラスチックをつくっていくとか、あるいは人工光合成で固定化する、あるいはトリジェネレーションで植物工場で固定化していくとか、そんなようなことを含めて、そういう併産というか、こういうシステムを日本は独自性のあるものとして進めていきたいというようなことを実践することによって、CO<sub>2</sub>で約100億トン削ることができます。ですから、本来、今500億トンですから、これは2050年で240億トンぐらいまで削らなきゃいけないということになります。ふえて減っていきますので、まだそれでも足りない状況でありまして、それをこれからさらにまたどういう形でアディショナルにCO<sub>2</sub>の削減を日本が貢献できるかということを図にあらわして出したものであります。これは久間先生から、首相に御報告あったというふうに聞いております。

以上です。

#### 【久間議員】

どうもありがとうございます。

2050年に向けて300億トンのCO<sub>2</sub>排出量の削減という、非常に難しい課題にチャレンジするものです。我々CSTIが中心になり、経産省、環境省等の協力を得ながらこのプロジェクトを推進していくことになります。

柏木委員からまとまった御説明をいただきましたが、これはエネルギー・環境関係だけではなくて、今日お集まりの全ての方々に関係するテーマです。今後、進捗状況等も御報告しますので、よろしくお願いします。

この件に関しまして、御質問等ありましたらどうぞ御自由に御発言ください。

土井委員、きょうは御発言がないのですが。

【土井委員】

ありがとうございます。

今、お話のあったところで、資料５－２のところで、せっかくこの資料５－２をまとめたいただいたところで、「地球温暖化対策推進本部およびＣＯＰ２１における総理指示に対応」というのだけだと特色が余りわからないので、今、柏木先生がお話しされた内容が何かもう少し、確かに５期と総合戦略２０１６の関連というところでは書けないかもしれないけど、もう少しその特色がわかるものを書いていただくと、エネルギー戦略協議会とか、そういうものとは違うというのがわかるのかなと思いました。

【久間議員】

布施田参事官、回答をお願いします。

【布施田参事官】

５－２ですね。戦略ワーキングに限らず、他の協議会の取組もある程度イメージができるような表現に直していきたいと思います。

ありがとうございました。

【久間議員】

ほかに皆さん、御意見ございますか。

よろしいですか。

どうもありがとうございます。

以上で本日の全ての議題を終了いたしました。

最後に事務局から連絡事項などありましたらお願いします。

【布施田参事官】

資料ですが、多くなっておりますので、郵送御希望の方は、そのまま机の上に置いておいていただければ結構でございます。

また、次回会合の御連絡ですが、まだ日程は決めてございません。ただ、事務局で今考えてございますのは、本年度の各協議会、分科会、ワーキンググループの進め方など、今年度の進

め方が大分固まってきたところで一度お集まりしていただくのがいいのかなということは考えているところでございます。

事務局からの連絡は以上でございます。

【久間議員】

それぞれの課題を、今後進める上で貴重な御意見を多数いただきましてどうもありがとうございます。

今後は、総合戦略2016に従って、各省庁から平成29年度の概算要求の施策を提出していただき、今月末から皆様の御協力のもとでヒアリングを行います。それで各分野のシステムの高度化、さらにはシステム間の連携の強化について、その可能性を検討し、第5期基本計画で掲げたSociety 5.0の実現に向けて推進していきたいと考えています。今後適宜、重要課題専門調査会を開催して、取組状況などを確認しつつ、各分野の課題解決に向けた取組を力強く推進していきたいと思いますので、皆様どうぞ御協力をよろしくお願いいたします。

それから、それぞれの戦略協議会とワーキンググループ間等で、必要に応じて連携するための会議等も行いたいと思いますので、いろいろと御提案いただければと思います。

それでは、これにて第9回重要課題専門調査会を終了いたします。

本日はどうもありがとうございました。

—了—